(2)は、下端部を欠失しており、全体の形状は不明であるが、上端は(1)に似る。また、文字の部分がやや浮き出しており、一定の期間風雨にさらされていたことがわかる。裏面の「辰巳」は、「巽」(東南)の意と解せられる。

「蘇民将来」の呪符木簡例のうち、下端を平坦にする形態をもつものは、大阪府小曽根遺跡でも出土しており(本号八六頁)、一二世紀代と報告されている。時期的にも本例に近く、のちの下端を尖らせる形態のものと相違することが注目される。

木簡の判読については、奈良国立文化財研究所綾村宏・森公章両氏の御教示を得た。

9　関係文献

川口宏海「神戸市森北町遺跡出土の呪符木簡」(『いなの』No.1　大手前女子大学史学研究所文化財調査室　一九八九年)

同「神戸市森北町遺跡の調査」(『いなの』No.2　大手前女子大学史学研究所文化財調査室　一九九〇年)

(川口宏海)

奈良国立文化財研究所編

『平城京　長屋王邸宅と木簡』

一九八六年から三年にわたって調査された平城京左京三条二坊及びその周辺の発掘調査概報。合せて一〇万点近くにのぼるかと見られる「長屋王家木簡」と「二条大路木簡」等も収録され、遺構・遺物についての現段階での成果が報告されている。

B5判、カラー図版三二頁、本文一八八頁

定価二九〇〇円、吉川弘文館　一九九〇年一二月刊行